

現在、宝塚歌劇団の雪組に所属し、活躍を続ける大洲市出身のタカラジェンヌ・彩風咲奈さん。
大洲が生んだ未来のスターについて、今月号から随時、掲載していきます。

初めまして

彩風咲奈です

「もっと研究に研究を重ねて、自分だけの『彩風咲奈』を追い求めていきたい」と、笑顔で語ってくれたのは、大洲市出身で宝塚歌劇団雪組に所属している彩風咲奈さん。

彩風さんに彼女自身のことや宝塚について、お話を伺いました。

▽宝塚歌劇団に入ろうと思ったきっかけについて、彩風さんはこんなエピソードを話してくれました。

「母が昔から宝塚のファンだったこともあり、私も宝塚の存在は知っていました。しかし、本当に入団したいと思ったのは、小学校6年生の時、NHKで放映された『ベルサイユのばら』を観てからです」

▽その後、宝塚音楽校に入学した彩風さんは93期生50人中、首席で卒業し、その後、宝塚歌劇団に入団されました。

2007年の春、星組公演「シークレット・ハンター」で初舞台を踏んだ彩風さんは、その当時をこう振り返ります。

「楽器演奏なども織り交ぜた公演で、とにかく楽しかった・うれしかったという気持ちでした。特に、最初の口上は、何年経っても忘れられない瞬間です」

▽男役を演じている彩風さんに、普段の立ち振る舞い方や休日の過ごし方について伺いました。

「男役を演じているみなさんは、踊り方・歩き方・手の出し方などこだわりがあり、それぞれの男役像を持っています。まずは、『彩風咲奈』の男役像を確立することを大切に、日々努力しています。私はオンとオフを切り替えるタイプですが、休日であっても、ファンの

人が見ているかもしれないという意識を忘れないように心がけています。一人で外出することも多く、パワースポット巡りなどでリフレッシュしています」

▽厳しい稽古など、多忙な毎日を過ごしている彩風さん。今後の意気込みを、こう話されます。

「今年で最後となる新人公演で、『ベルサイユのばら』『フェルゼンとマリー・アントワネット編』をやらせていただきます。この舞台に立つことが長年の夢だったので、本当にうれしいです。必ず、最高の公演にしたいと思います。」

最近、男役の研究に没頭しています。見本となる先輩方の良いところを、自分自身の男役像に取り入れていきたいです。そして、もっと貪欲に、何事にも挑戦していこうと思います。」



舞台上で輝く、大洲市出身のタカラジェンヌ

あや かせ さき な
男役 彩風 咲奈 (雪組)

大洲市出身のタカラジェンヌ・・・彩風咲奈さん。

彼女が立つ夢の舞台、そして見据える今後の未来像について語っていただきました。



©宝塚歌劇団

大洲市民へメッセージ

「愛媛の人たちからも、たびたびファンレターをいただき、それを見るたびに、大洲で過ごした懐かしい日々を思い出します。忙しい毎日を過ごしていても、ふと大洲に帰りたいと思う時があります。実際に、大洲に帰省できた時に感じる『幸せ』は、何物にも代え難い気持ちです。

私は、愛媛で食べるご飯が大好きです。友達を連れて愛媛に遊びに行った時、ご飯がおいしいと評判でした。そんなおいしいご飯が、私の自慢になっています。

大洲を離れてから数年、私はあの頃よりも成長できていると、胸を張って言えます。これからも、宝塚を観ていただいた多くのみなさんへ、夢を与えられるように頑張ります。これからも温かく見守ってください」



【がんばる市内企業の事業活動や事業展開を紹介します】

村田文福老舗

～老舗の名に恥じない手作り和菓子司を目指して～



◆所在地 大洲市大洲
◆電話 24-2359

弊店は寛永元年（1624年）創業以来、14代にわたり和菓子専門店として営んできました。

弊社では10種類以上の商品を扱っていますが、主力商品は、伊予大洲藩加藤家御用菓子として知られている「月窓餅」です。「月窓餅」は、蕨餅で小豆餡を包み、青大豆のきな粉をまぶしたやわらかい食感の和菓子です。多種多様な商品開発がはやる中、変わらない「月窓餅」は長年、多くの人に愛されてきました。

現在、市内では本町本店をはじめ、日本橋・新宿高島屋、東京新橋の香川愛媛旬彩館など、県外でも宣伝広告に努め、販売しています。しかし、販路が広がる中、手作業で作り上げる弊店の商品は、大量に生産すること

がんばる大洲企業



とはできません。蕨餅を作る際の火加減やあんこを寝かせる期間など、微妙な調整は職人の手で行う必要があります。

手間暇のかかる商品ですが、東京や大阪などで開催される物産フェアでも「月窓餅」は人気があり、いつも完売しています。お客様の喜ぶ顔を見るたびに、やりがいとやる気をいただきます。

「月窓餅」に使用される主材料は、本蕨粉、小豆、青大豆で、すべて国産のものを使用しています。青大豆に関しては、大洲での契約栽培に取り組み、100%大洲産青大豆のきな粉を目指しています。

近年では大洲の観光に合った新商品として、大洲城とかいの図柄をモチーフとした「ええとこせんべい」や、「愛媛柚子せんべい」を販売しています。これからも、微力ながら地元貢献していきたいと考えています。

今後も、永年続く伝統を守り、老舗の和菓子司として、お客様に親しまれる商品を提供します。

文化財

新谷藩陣屋跡
大洲市指定史跡
大洲市所有



新谷藩は、寛永16年（1639）に大洲藩2代藩主加藤泰興が、弟の加藤直泰へ6万石のうち1万石を分け与えて成立した藩です。

直泰は、寛永19年（1642）大洲城から約8km離れた新谷の地に陣屋（3万石以下の城を持たない大名が住む屋敷）と陣屋町の建設を命じ、同年家臣たちの引っ越しが行われました。

この陣屋は直泰の統治以後、版籍奉還まで9代にわたって新谷藩1万石の拠点でしたが、明治以降は小学校として利用されるなど、新谷地区の教育の拠点へと移り変わりました。

現在では、新谷小学校内にある麟鳳閣（愛媛県指定有形文化財）が、新谷藩の陣屋をしのばせる唯一の遺構として残されています。

（昭和31年9月30日指定）

野鳥

ジョウビタキ（常鷲）
スズメ目 ツグミ科
大きさ14cm



この鳥は、里山が紅葉に染まる頃にシベリア大陸からやってきます。飛来数は年によって変化しますが、日本海沿岸に野鳥の餌となる実を樹木が大量につけた年は、南下数が少ないそうです。特徴のある声で「ヒッヒッ」や「カッカッ」と鳴いて、庭先や人家近くの電線にとまっている姿をよく目にします。翼にある大きな白斑が目立つため、地元では紋付鳥やモンカチと呼ばれています。すばしこい小鳥ですが、餌の乏しい冬期は農作業している人のそばにきて、地中から掘り出された昆虫などを食べます。

最近、過疎化や限界集落などの言葉をよく耳にします。また、数百年続いた里山の風景が、急速なスピードで失われつつあります。このままでは、そこに暮らしていた多くの生き物も行き場所を失い、やがて姿を消していくような気がしてなりません。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

麟鳳閣に手作り看板を寄贈

10月4日(木)、国立大洲青少年交流の家の松岡孝次^{たかつぐ}所長から、新谷藩陣屋の遺構である麟鳳閣(愛媛県指定有形文化財)に手作りの看板が寄贈されました。

寄贈された看板は、縦80cm・横25cmの杉板を使用し、彫刻刀で文字を彫り、黒墨を塗って仕上げられたものです。

以前、国立中央青少年交流の家に勤務していた松岡所長は、木材を教育に生かす活動をしていたNPO法人とともに事業を行っていました。この経験が間伐材や廃材を利用し、自身が得意とする書道を生かした看板作りに励むきっかけとなり、今回の看板作製につながりました。

現在までに製作した看板は、国立能登青少年交流の家や羽^は市にある堀川新町会館などの公共施設へ寄贈されていて、今回の看板で30作目になります。

看板を受け取った清水市長は「これを機に、この歴史ある建物をより多くの人に見てもらいたい」と話しました。

麟鳳閣入口脇に飾られたこの看板は、手作りならではの温かさと木のぬくもりが感じられる仕上がりとなっています。みなさんもぜひ、見学してみてください。

なお、麟鳳閣内部の見学を希望する場合は、事前に新谷小学校へ問い合わせください。



平成24年度大洲市戦没者・消防および公務殉職者合同追悼式

大洲市内の戦没者や殉職者を追悼しようと、平成24年度大洲市戦没者・消防および公務殉職者合同追悼式が10月18日(木)、大洲市民会館で開催されました。

開式を前に、市内各地から続々と関係者が会場を訪れ、400人を超える参列者が参加しました。

清水市長は「戦争が終わってから67年が経ち、日本は世界に誇れる国になりました。私たちはこのような陰に、多くの尊い犠牲があったことを忘れてはいけません。今後、戦争の悲惨さを決して風化させず、次世代に語り継ぎ、平和で豊かな社会の確立に向けて努力していこうと思います」と亡くなられた人たちの追悼し、次世代への継承を固く誓いました。



遺族を代表して、濱田イツミさんは「現在、私たちは多くの助けがあり、平和な生活ができています。若い世代が増える中、戦争の残酷さを伝えていくことが、私たちの使命だと思います。一方で、平和な時代であっても、多くの人たちが殉職されています。今後、多くの知恵や努力を結集させ、犠牲者を出さないようにしてほしいです」と戦争体験の風化防止や、今後の取り組みについて呼びかけました。

今回の合同追悼式では、戦没者1166柱、消防・公務殉職者14柱の英霊に対し、黙とうや献花が捧げられました。